

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ王国

日付：2019年12月24日

報告書名：平成29年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

事業名	「タイ・ミャンマー国境の難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業」(第3年次) Non-formal education project through community libraries in the refugee camps along the Thai-Myanmar border	
事業対象地	タイ王国 ミャンマー国境9カ所の難民キャンプ	
事業期間	2018年3月31日～2019年3月30日	
公的資金種別	平成29年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出・返還金	総支出：34,529,846円(返還額：724,301円)	
プロジェクト目標および、その達成度	「難民キャンプの住民が読書推進活動を通じて、ライフスキルを身に着けるための知識と技術を習得している」ことを上位目標として事業を実施した。事業1年目、2年目に続き、コミュニティへの図書サービス、学校教育の質の改善、青年による読書推進を実施した。事業期間内に延べ388,359人が21館のコミュニティ図書館を利用し、さらに、研修を受けた教員249人、青年ボランティア193人が、各学校、92カ所のキャンプ内地区等で読書推進を行った。3年間の事業の成果として、読書推進が難民キャンプに広がっており、多くの住民が図書館を知識や情報を得る場所として利用している。今後もコミュニティや青年ボランティアを中心に読書推進が進められる予定であり、図書館の利用は継続され、今後も住民は知識や技術を習得していくことが期待される。	
実施内容 概要	(ア) コミュニティへの図書サービス活動 23,991冊の成人向け図書を購入し、21館の図書館に配架し、子ども向けのタイ絵本を計1,220冊購入し、カレン語、ビルマ語の翻訳シールを貼り付けて、各図書館に配布した。計画時、成人向けの図書は24,000冊を予定していたが、月によって図書の価格が変動し、1年全体では計画より9冊削減となった。	受益者数 年間図書館利用者: 延べ388,359人
	(イ) 学校教育の質の改善活動 学校教員を対象とした図書活用研修会をカレン系、カレニー系キャンプ含む9カ所で実施した。また学校教育における補助教材として使用可能な学習参考書をカレニー系キャンプ2カ所含む9カ所の難民キャンプに計4,977冊供与した。また、事業1年目に設備改善を行った28校のうち25校の学校を対象にモニタリング活動を行った。事業2年次に報告した通り、難民キャンプへの支援減少や人口の減少に伴って、学校の統廃合が行われている。	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ王国

日付：2019年12月24日

報告書名：平成29年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>(ウ) 青年による読書推進活動の実施</p> <p>各難民キャンプで青年ボランティアを対象とした育成研修会を2日間実施した。研修後、青年ボランティアによる様々な読書推進活動が行われた。</p>	
成果	<p>(ア) コミュニティへの図書サービス活動</p> <p>活動を通じてコミュニティ全体において図書サービスが改善されている。各図書館の周辺に住む住民計209人へ聞き取りを行った結果、99%の住民が図書館の蔵書は自分達のニーズに合致しており、適切に管理されていると回答した。また、図書館員を対象とした研修後に実施したモニタリングでは、研修に参加した図書館員の91%が、研修で得た知識、技術を活用して、図書サービスを適切に実施していた。上記の活動を通じて図書館サービスの質が向上し、難民キャンプ住民がニーズに合った図書にアクセスできるようになった。</p> <p>(イ) 学校教育の質の改善活動</p> <p>教育の質を改善するための補助教材や学習参考書を活用する環境が整備されている。学校教員を対象とした図書活用研修会後に実施した質問紙調査では、全体の82%が研修を通じて知識と技能を得ていることが分かった。供与した学習参考書は、図書館で適切に管理されていることが観察を通じて確認され、ニーズ調査の結果97%の教員が学習参考書は自分達のニーズに合致していると回答した。事業1年目に学校図書室の設備改善を行った25校について観察調査した結果、約85%の学校で十分に整備されていることが確認できており、事業2年目と比較しても適切な維持がされていることが分かった。学校図書室の利用者が増えているが、反面で必要な資材が不足している図書室があることも分かった。</p> <p>(ウ) 青年による読書推進活動の実施</p> <p>コミュニティでの読書推進活動への参加を通じて、青年が自主的に活動できる機会が増えている。青年ボランティアへの研修後の質問紙調査では、全体として85%の参加者が知識と技能を習得していることが分かった。事業期間内の青年ボランティアが実施した週末の読み聞かせ活動の回数は、1地区あたり26回の実施となり指標である20回を達成した。</p>	
課題と対応策	<p>持続性に関して。3年間の本事業終了後も難民キャンプの住民による図書館運営、サービスの提供が継続することを想定しているが、難民キャンプという場所の性質上、完全に自活することは難しく、外からの資金や物資の提供が不可欠である。当会は難民キャンプがあり続ける限り、図書館への資金や物資の支援を、規模を縮小して実施する予定である。</p>	